１．与那原小学校

令和４年 10 月 25 日(火)、与那原小学校を訪問し、算数科の授業(中堅研)を参観する機会がありました。

この日は爽やか秋晴れの中、元気よく声を出して、運動会の練習に励んでいる児童と先生方の姿に感動し、思わずみとれてしまう自分がいました（図１)。

図１　運動会のリハーサルをしている児童

２．授業①（６年３組 仲村 仁志 先生）

仲村仁志先生は、特別支援教育の視点から、ユニバーサルデザインを授業に取り入れており、手作りの立体を制作、その立体の底面に色を塗るなど、視覚化する工夫がなされていました(図２)。図だけではなく、「言葉」を視覚化することで、児童の声から、「方法の見通し」を引き出す契機になったかもしれません。

図２　手作りの立体を使って考え合う

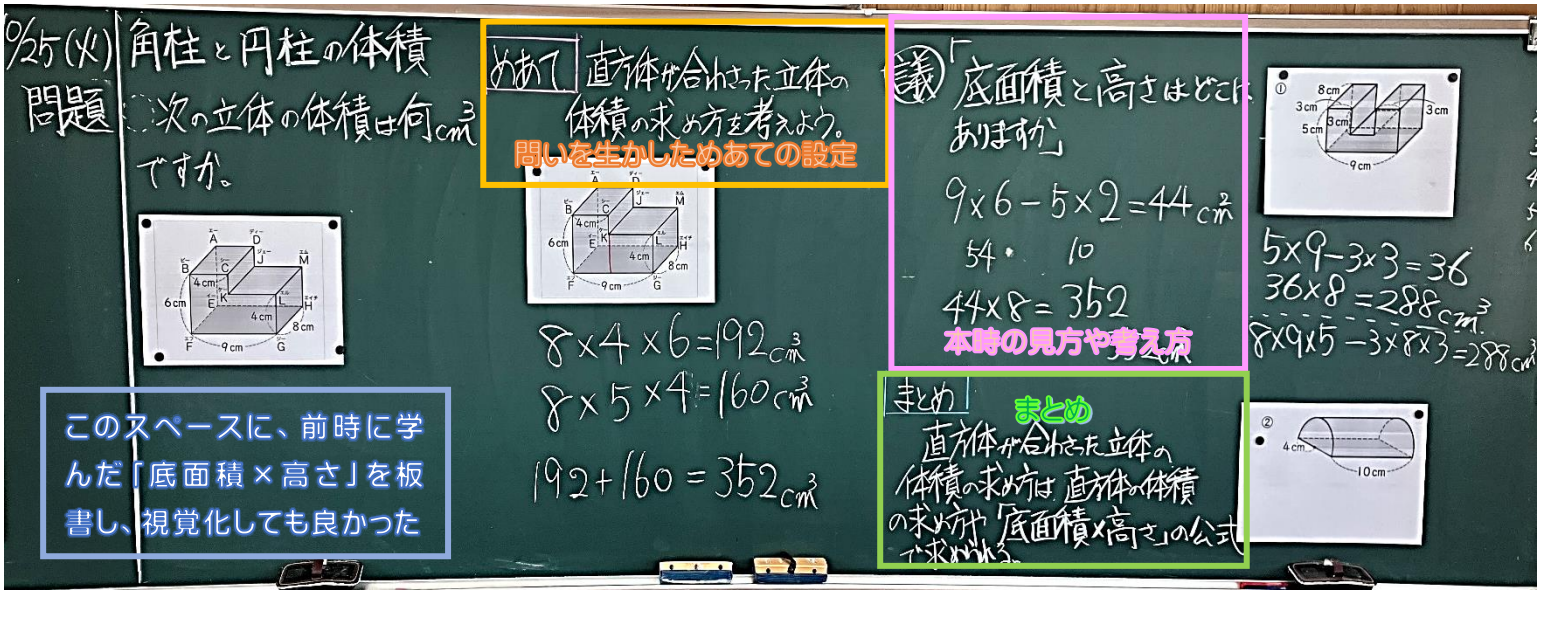
３．授業②（６年１組 野原 太一 先生）

野原太一先生は、ファシリテーター役として、児童のつぶやきを拾ったり、個々の気持ちに寄り添ったりするのが上手くて「なるほど～」と、少し大げさに児童と共感する姿が印象的でした。導入場面で、前時で学習した「底面積×高さ」を視覚化しておくことで、５年生で学習した体積の求める方法と、比較・検討する場面が設けられたかもしれません。

図３　児童が考え合う場面に共感する

３．反省とお礼

仲村仁志先生、野原太一先生、中堅研の授業おつかれさまでした。本時の授業では、小学校５年生で学習する直方体の体積を、６年生の児童が、どんな見方や考え方を働かせて、底面積×高さを使って問題解決に挑むのか、楽しみながら参観することができました。

小学校の授業や、支持的風土のある学級づくりを直に見て、大変勉強になりましたし、小学校で鍛えられて進学してくる中学生を一層伸ばせるように、中学校も頑張っていきたいです。ありがとうございました。

【HKさんにインタビュー】本時の授業で何を学んだ？
私は５年生で学習した縦×横×高さより、底面積×高さの方が、いろいろな形になっても求められると思う。